

inwatch Professional Report

【第252】2025.11.28

発行:有限会社インスウォッチ

■ InsurTech が生み出す

保険商品の比較検証

筆 者 森田 直子

Inwatch professional report は、専門家によるテーマ別に突っ込んだ分析レポートを、図表等も織りまさした内容でお届けします。

マーケティング、経営戦略、リスクマネジメント、コンプライアンス、決算分析、商品分析、社会保険制度、DXなど、それぞれのプロによる専門性の高いレポートをお楽しみ下さい。

発行日は、第4または第5金曜日、PDFファイルにてお届けします。また、2024年より発行は年9回となっております。（4月末、8月末、12月末はお休みです）

※コンテンツご利用についてのお願い

inwatch のコンテンツ (inwatch weekly, professional report) につきましては、購読者ご本人のご利用に限らせて頂きます。第三者に対するメールによる転送、ハードコピーによる配布等は、当社よりの許可を得たものを除き、固くお断りいたします。

なお、コンテンツご利用に関するお問い合わせは下記にお願いいたします。

■お問合せ info@inwatch.co.jp

■index ■**■InsurTech が生み出す保険商品の比較検証****筆 者 森田 直子****目次**

■筆者紹介	- 3 -
はじめに	- 4 -
1. テクノロジーを活かした保険商品の台頭	- 5 -
2. 大手生保会社が取り扱う「積立保険」	- 5 -
(1)積立保険の動向	- 5 -
(2)大手生保が取り扱う積立保険の比較一覧表	- 7 -
3. 「熱中症保険」の動向と比較	- 8 -
(1) 熱中症保険の動向	- 8 -
(2) 熱中症をカバーする既存の生命保険商品・損害保険商品の動向	- 8 -
(3) 熱中症保険の特徴	- 9 -
(3) 熱中症保険の比較一覧	- 10 -
4. 妊娠・出産保険	- 11 -
(1) 妊産婦が利用する必須アプリの機能と役割	- 11 -
(2) 妊娠・出産保険の動向	- 11 -
(3) 妊娠・出産保険の比較一覧（短期保障）	- 13 -
(4) 妊娠・出産保険の比較一覧（一定期間保障）	- 14 -
おわりに	- 15 -

■筆者紹介

【森田 直子(もりた なおこ)】



保険ジャーナリスト

有限会社インスウォッチ 代表取締役

有限会社エヌワンエージェンシー 代表取締役

<https://www.inwatch.co.jp>

<https://www10.inwatch.co.jp/>

<http://www.n1agency.com>

保険・金融分野専門の執筆家、保険ジャーナリスト。

保険業界メールマガジン inwatch 発行人。

大手生保営業職員と保険代理店での営業経験を持ち現場知識に強く、庶民感覚を重視した文体に定評がある。執筆実績や連載等多数。講演活動やWEB 講師業も行う。

■経歴

1991年 大手生保会社営業職員として勤務

2000年 (有)エヌワンエージェンシー設立 代表取締役就任

保険代理店、ならびに保険ジャーナリストとして活動開始

2000年 保険業界向けメルマガ inwatch 発刊 取締役就任

2004年 武蔵野大学 キャリア開発講座・金融業界研究クラス担当講師(5年間)

2018年 (有)インスウォッチ 代表取締役就任

■動画ニュース

ビズアップ総研「金融機関のためのオンライン研修 e-JINZAI for finance」、「e-生保 jinzai」にて、毎月2本ニュース動画配信中(保険業界ニュースウォッチ・生命保険商品研究室)

<https://www.mw-ejinzai.com/> <https://www.seiho-jinzai.com/>

■書籍

「生保営業のたまごとひよこー成長するためのヒント」(保険毎日新聞社)

「あなたの保険は大丈夫?」(ダイヤモンド社)

「小さな会社のためのお金の参考書」(冬幻舎)監修・執筆

「就業不能リスクと GLTD」共著(保険毎日新聞社)

「生保営業で成長するための~無知の知のススメ」(保険毎日新聞社)、など

■連載

保険毎日新聞(生保営業のひよこ)、ダイヤモンドオンライン(保険ラボ)、

inwatch(深読み生保商品考察、森を見る視点)、他。

■雑誌・ムック・その他

週刊ダイヤモンド、よい保険・悪い保険、など経済紙やムック本にてランキング委員を務める。

その他、保険会社のご契約のしおり・保険会社および保険代理店の WEB サイト(募集文書)執筆、ムック本、マネー誌、業界紙等の執筆実績多数。

■InsurTech が生み出す保険商品の比較検証

筆 者 森田 直子

はじめに

今回の原稿は、11月12日、株式会社セミナーインフォ様にて講演をした内容の一部について、詳細説明を加えた上で原稿化したものである。

講演全体の詳しい内容は株式会社セミナーインフォ様のHPにてアーカイブ動画をぜひご覧いただきたい。

<https://seminar-info.jp/entry/seminars/view/1/6715>

なおセミナーインフォでの講演内容の構成は以下の通り。

■講演テーマ

<2025年版>生命保険商品をとりまく現状と今後の展望

【目次】

1. 生命保険商品の進化と動向

- (1) 近年の保険商品の変化と特徴
- (2) 保険商品に関連する社会保険等の近年動向
- (3) テクノロジーを活かした保険商品の台頭

2. トレンド商品の比較検証

- (1) がん保険
- (2) 医療保険
- (3) 一時金型の医療保険
- (4) 就業不能保険

(5) 収入保障保険 + 就業不能保険

(6) 変額保険

(7) 介護・認知症保険の現状と課題

(8) 積立保険

(9) 熱中症保険

(10) 妊娠・出産保険

3. 特徴のある付帯サービス

4. 販売チャネルの動向

(1) 販売チャネル動向と推移

(2) 注目チャネル

今回の原稿は、上記の項目の「2. トレンド商品の比較検証」の中から、テクノロジーを活かした商品である積立保険、熱中症保険、妊娠・出産保険について、詳細説明を加えた上で紹介していく。

1. テクノロジーを活かした保険商品の台頭

近年、保険業界では、デジタルトランスフォーメーション（DX）の動きが加速。AI、IoT、ビッグデータなどのテクノロジーを活用し、従来の保険の概念を超えた、顧客体験の向上や個別化されたリスク対応を可能にする商品やサービスが、世界でも日本でも次々と生まれている。

中でも、組込型保険（エンベデッド・インシュアランス）と呼ばれる保険商品が発達している。組込型保険とは、保険以外の企業が提供する商品やサービスを購入・利用する一連の流れの中に、保険機能を組み込んで提供する新しい販売手法のことである。

とくに、大手生命保険会社などがテクノロジーを活かし提供しているDX系商品として近年注目度が上がっているものとして、このレポートでは、「大手生保が取り扱う積立保険」、「熱中症保険」、「妊娠・出産保険」を紹介していく。

2. 大手生保会社が取り扱う「積立保険」

(1)積立保険の動向

積立保険を最初に発売したのは明治安田生命で、2016年10月に「かんたん保険シリーズ ライト！ By 明治安田生命」の名称で3商品のラインナップでスタートしており、当該商品である「じぶんの積立」のほか、「ひとくち終身」「つみたて学資」がある。

なお現在の明治安田生命の「かんたん保険シリーズ」は、上記3商品のほか、自転車保険・傷害保険・短期の自動車保険などの損害保険商品（引受・東京海上日動（株））と、ペット保険（引受・アニコム損害）などもラインナップされている。

2016年から9年の時を経て、今年2025年になってから、日本生命と住友生命、太陽生命が相次いで積立保険を発売。これら後続の3社の商品は、デジタル技術を活かして作られており、スマートフォンで契約が完結するなど利便性があり、InsurTechを活かした商品と言える。

そして、この積立保険に共通する最大のメリットは、途中解約しても元本割れしないことである。つまり、気軽に始められていつでもやめられる。

また、銀行商品よりも返戻率が高いこともメリットだ。例えば、5年後に102.1%、10

年後には 106.3% となる商品などがあり、銀行の積立預金や定期預金に比べると、それなりに高いと言える。

更に、支払う保険料は「生命保険料控除」の対象となり、これも大きなメリットである。生命保険については先々考えようという若者にとっても、まずはこの積立を始めることで、税金の軽減というメリットを享受できる。

【共通するメリット】

- 元本割れがないので気軽に資産形成を始められ、いつでもやめられる。
- 銀行で積立預金や定期預金に加入するよりも利率がよい。手軽に積立ができる。
- 支払う保険料は「生命保険料控除」の対象、所得税や住民税が減税となる。

なお、「若年層向け」と言われているが、実際の加入年齢幅は商品によって異なり、中高年でも加入できる商品もある。ただし商品によって、再契約への制限があるなど、一度解約してまた加入したい時には注意が必要となる。その他の各社の商品の違いは次の通りである【次ページの図表参照】。

●加入年齢：明治安田 75 歳、住友 69 歳、太陽 65 歳までと中高年以降でも加入しやすい。ただし日生は 49 歳まで。

●支払方法：日生のみクレジットカード払い対応。住友は初回保険料のみ PayPay やペイジー、コンビニ払いが使える。太陽は初回保険料のみクレジットカード可能、など。

●払込期間：明治安田・住友・太陽が 5 年、日生は 3 年。ただし満期は全社 10 年間。

●解約後の再契約：住友は可能、他は 3 年後や 1 年後などの制限あり。

●加入方法：明治安田は営業職員を経由してのオンライン契約可能、住友はスマホのみ、他はネット・オンライン・対面全て可能。

●返戻率：3 年後・5 年後は日生命が高く、10 年後は明治安田と住友生命が高い。

●災害死亡保障：太陽生命のみ満期保険金額と同額、他は積立金額の 1.1 倍相当額。

●その他の違い：太陽は特約で複数の保障を付加できる(その際は告知あり)。

なお、図表にはないが、電話での問い合わせ対応も確認している。その中で、明治安田が最も親切で迅速だった。これは 10 年前から発売している実績によるものだろう。

(2)大手生保が取り扱う積立保険の比較一覧表

保険会社	明治安田生命	日本生命	住友生命	太陽生命
商品名	じぶんの積立	ちょこつみ	Chakin	太陽生命の貯まる保険
発売時期	2016年10月	2025年1月	2025年3月	2025年8月
加入年齢	6~75歳	0~49歳(スマホ完結の場合 18~49歳)	18~69歳	18~65歳
保険料	1口5000円、4口まで	3000/5000/1万/2万/3万	5000~1万5000円(1000円単位)	3000~2万3000円(1000円単位)
支払方法	口座振替	クレジットカード、口座振替(スマホ完結の場合クレジットカードのみ)	初回:PayPay・ペイジー・コンビニ払い、2回目以降:口座振替	初回:クレジットカード、2回目以降:口座振替
払込期間	5年	3年	5年	5年
保険期間	10年	10年	10年	10年
解約後の再加入	3年後	3年後	可能	(未確認)
加入方法	対面・オンライン(営業職員経由)	スマホ完結・対面	スマホ完結	ネット・スマホ・対面
一般生命保険料控除	対象	対象	対象	対象
元本割れの期間	なし	なし	なし	なし
返戻率 3年経過後	100.00%	101.00%	100.60%	100.00%
返戻率 5年経過後	101.40%	102.10%	101.00%	101.10%
返戻率 10年満期後	106.30%	105.20%	106.10%	105.30%
災害死亡給付金	積立金額の1.1倍相当額	積立金額の1.1倍相当額(※1)	積立金額の1.1倍相当額	満期保険金額
死亡給付金	積立金相当額	積立金相当額(※2)	積立金相当額	払込期間中:既払込保険料相当額 払込期間満了後:責任準備金相当額
特徴など	営業職員経由であればオンラインで加入可能。ラインナップにひとつ終身、つみたて学資もあり	3000円から加入できる、スマホ完結、払込期間3年、クレジットカード可	1000円単位で加入できる(5000円以上)、加入後の手続きもスマホ完結(減額・解約含む)、解約返戻金は翌日着金(20時まで)。	3000円から加入できる、特約も付加可能(がん、医療、死亡保障、就業不能、先進医療、P免、特約付加時は告知あり)

※1 保険料払込期間中は1か月分保険料×死亡日までの月数×1.1

※2 保険料払込期間中は1か月分の保険料×死亡日までの月数

<2025年11月 筆者作成>

3. 「熱中症保険」の動向と比較

(1) 热中症保険の動向

熱中症保険は、昨年（2024年）に決済アプリPayPayから加入できる組込型保険として登場しており、昨年の猛暑を受けて好調に販売件数を伸ばした。商品提供は、住友生命傘下のアイアル少額短期保険である。

アプリで本人確認が済んでいるため、非常に簡単に加入できるのが特徴と言える。長くこの業界にいる筆者にとっては、驚くほどの短時間で決済まで完了する仕組みに大変驚いた次第（1分からず完了する）。まさに時代の変化を痛感した。

なお、決済サービス「PayPay」は、アプリ内で様々なサービスコンテンツがあり、「PayPay ほけん」もその一つである。PayPay ほけんのHPによると、2025年11月現在、熱中症保険（正式名：熱中症お見舞い金）を含む、その他のラインナップは14種類あり、商品によって引受保険会社はアイアル少額短期保険（株）のほか、損害保険ジャパン（株）、東京海上日動火災保険（株）なども商品供給をしている。

そして今年2025年になって、新たな熱中症保険が次々と登場してきた。

同じく決済アプリから加入できるものとしては、d払いアプリ（東京海上日動傘下のTokio Marine X 少額短期）、楽天ペイアプリ（楽天少額短期）がある。また、スマホから加入できるものとして、熱中症・インフルエンザ保険（日本生命傘下のニッセイプラス少額短期保険）、デジホの熱中症保険（第一生命傘下の第一スマート少額）も発売されている。

このように、大手保険会社である住友生命、日本生命、第一生命、東京海上などがテクノロジーを活用してこの分野に参入してきたと言える。

そして、昨年に引き続き今年（2025年）の夏も猛暑だったことから、これらの熱中症保険は販売を伸ばしたと思われる。

(2) 热中症をカバーする既存の生命保険商品・損害保険商品の動向

生命保険分野では、熱中症による入院や死亡時には保障の対象となる。しかし、通院のみでは対象外となる。

損害保険会社などが販売している傷害保険では、保険金が支給されるのは「急激」「外来」「偶然」の3つの状況がそろった時であるため、熱中症は「急激」の条件を満たさず、

そのため一般的には、傷害保険では熱中症は対象外となる。ただし、保険会社や商品により補償される場合もあり、傷害保険のほか、国内旅行保険でも一部の保険会社で補償対象としているなど、今後損保分野商品で補償が広がる可能がある。

【傷害保険で熱中症をカバーする商品】

- ・損保ジャパン：2025年1月よりカラダの保険ラインナップで補償対象。
- ・三井住友海上：傷害保険の充実プランのみ補償対象。
- ・東京海上：2025年10月より「トータルアシストからだの保険」に「熱中症特約」販売開始、3つのプランから選択する。

【国内旅行保険で熱中症の補償がある商品】

- ・東京海上日動：国内旅行保険
- ・ジェイアイ傷害火災：t@biho（国内旅行）に熱中症特約あり。

（3）熱中症保険の特徴

本題の熱中症保険の特徴については、この商品がカバーするのは「熱中症による点滴治療」と「熱中症による入院」であり、両方とも一時金が支払われる仕組みとなっている。

また本人だけではなく、0～99歳までの家族（配偶者・子・父母・義理父母）も加入させることができるので、熱中症になりやすい子どもや高齢の両親などを含めて申し込めることも特徴である（保険料は個々にかかる）。

その他、熱中症保険の詳しい内容や注意点をまとめると以下の通り。

- 熱中症で通院しても、点滴を打たないと治療保険金は請求できない。
- 入院保険金は、1泊2日以上の入院でなければ支払われない商品が多い。
- 入院中に点滴治療した場合、治療保険金と入院保険金の両方請求できる。
- 治療保険金と入院保険金は、いずれも一時金である。
- 各保険金は、同一の治療に対して、日型の場合は各1回まで。月型の場合は商品により各1回と各2回まで。
- 死亡保障はない。

また、各社商品の違いや特徴をあげると次の通り【次ページの図表参照】。

- ◎アプリから加入できポイントで支払えるのはPayPay、d払い、楽天。
- ◎救急搬送時の保障があるのはd払い。
- ◎ニッセイプラスは熱中症とインフルエンザの1年保障（他社では冬の季節に別途インフルエンザ保険が出る場合が多い）。
- ◎入院保険金は1泊2日以上の入院が対象（※ニッセイプラスのみ入院1日）。

(3) 热中症保険の比較一覧

提供会社	アイアル少額短期・住友生命	Tokio Marine X 少額短期	楽天少額短期	第一スマート少額短期	ニッセイプラス少額短期	
商品名	熱中症お見舞い金	ドコモの熱中症お見舞金保険	熱中症のほけん	デジホの熱中症保険	熱中症・インフルエンザ保険	
加入方法	PayPay アプリ	d 払いアプリ	楽天ペイアプリ	スマートフォン	スマートフォン等	
加入可能期間	4/26~10/31	4/16~11/15	7/17~10/31	4/1~10/31		
保障期間	1~7 日間、1~7 か月 (ひと月 30 日)	1~7 日間、1~7 か月 (ひと月 30 日)	1~7 日、1~7 か月	1~7 日、1~7 か月	1 年間	
支払回数	日単位 1 回、月単位の場合 2 回	1 回	日単位 1 回、月単位の場合 2 回	1 回	各保障 2 回ずつ	
入院時の給付条件	2 日(1 泊 2 日) 以上の入院	2 日(1 泊 2 日)以上の入院	2 日(1 泊 2 日)以上の入院	2 日(1 泊 2 日) 以上の入院	1 日(入院の開始)	
プラン	プラン①	治療保険金 5000 円 入院 1 万円	救急搬送見舞金 5000 円 治療保険金 5000 円 入院保険金 1 万円	治療保険金 5000 円 入院 1 万円	治療保険金 5000 円 入院 1 万円	熱中症治療保険金 1 万円 熱中症入院保険金 3 万円
	プラン②	治療保険金 7000 円 入院 3 万円	救急搬送見舞金/1 万円 治療保険金 1 万円 入院保険金 3 万円	治療保険金 7000 円 入院 3 万円	治療保険金 1 万円 入院 3 万円	インフルエンザ治療保険金 ※治療保険金は抗インフルエンザ薬の投与治療時 1000~3000 円、 インフルエンザ入院保険金 1 万円~3 万円
	プラン③	治療保険金 1 万円 入院 3 万円	救急搬送見舞金/2 万円 治療保険金 1 万円 入院保険金 4 万円	治療保険金 1 万円 入院 3 万円	-	
保険料例	日型(1 日の保険料例)	③のみ、1 日 100 円	① 80 円 ② 100 円 ③ 140 円	③のみ、1 日 100 円から	① 80 円 ② 90 円	-
	月型	① 200 円 ② 220 円 ③ 240 円	① 200 円 ② 220 円 ③ 230 円	① 200 円 ② 220 円 ③ 230 円	① 200 円 ② 230 円	月 250 円
特徴・注意点	ポイントでも申込可能、リピート割で月型 10 円割引	救急搬送見舞金がある、ポイントでも申込可能、リピーターはポイント還元率アップ、	ポイントでも申込可能	スマホから申込	インフルエンザは年齢により保障額が異なる、※治療保険金は抗インフルエンザ薬の投与治療時	

4. 妊娠・出産保険

（1）妊娠婦が利用する必須アプリの機能と役割

妊娠・出産保険は、妊娠婦向けのアプリなどを通じて組込型保険として提供されている。保険商品の前に、このアプリについて、知らない世代の人向けに簡単に紹介しておく。

近年、妊娠・出産を控えた層が広く利用するスマートフォンアプリは、現代の妊娠婦にとって不可欠なツールとなっていて、妊娠婦のほとんどが活用している。従来の紙の母子手帳では網羅できなかった、きめ細やかな情報提供、記録のデジタル化、および利用者間のコミュニケーションツールとしても可用されているのが特徴となっている。

主要なアプリは機能により大きく分けて2種類あり「記録・情報提供系」と「自治体連携系（電子母子手帳）」がある。

「記録・情報提供系」アプリは、妊娠週数に基づき、胎児の成長イメージや妊娠の体調変化に関する専門的な情報を日々配信するしくみ。パートナーとの情報共有を促進し、妊娠生活の進行状況などを可視化する上でも有効。主なアプリは以下の通り。

- トツキトオカ：夫婦間の情報共有に特化していて、妊娠日数カウンターや交換日記機能などがある。家族や夫婦の心理的連携をサポートする。
- ninaru（ニナル）：妊娠週数に応じた、明確なエビデンスのある信頼性の高い情報を配信。陣痛タイマーや胎動カウントなど、出産に直結する実用機能もある。
- たまひよのアプリ：妊娠・出産・育児期に役立つ、情報提供や記録機能が充実。

なお「自治体連携系（電子母子手帳）」には790の自治体で導入されている「母子モ」や、予防接種の推奨時期を自動計算する「すくすく」などがある。

（2）妊娠・出産保険の動向

続いて、保険商品の動向について。

妊娠や出産に関連する保険商品は現在、大手保険会社系列の少額短期保険会社を中心に、複数発売されており、上記の、妊娠婦向けアプリなどから加入できる組込型保険が多くなっている。

保障内容は商品によって全く異なり、保障期間で見ると、短期間保障（2～3年）と、一定期間保障が続くタイプがある。

【短期保障の商品】

- ・妊娠中と、出産後の数年のみの期間を保障。
- ・保険期間は2年～3年までなど。
- ・妊娠中のリスク保障と赤ちゃんの入院保障などがセット。

【一定期間保障が続く商品】

- ・妊娠中および、その後も継続的に一定期間の更新が可能。
 - ・妊娠中でも加入できる「女性医療保険+子どもの医療保険」の形態に近い。
 - ・妊娠や出産に関連するリスクの保障も一部備えている。
- (※一般的な医療保険では、妊娠中の加入を不可あるいは部位不担保とする商品が多いが、一部には妊娠中でも加入できる医療保険商品もある。)

保障の種類は以下の通り複数種類あり、本人の妊娠に係る疾病への保障のほか、三大疾病保障や死亡保障、子どもの入院保障など、商品によってカバーする保障内容が全く異なる。

- ①本人（母）の妊娠中または産後の特定の症状への保障（うつ・妊婦高血圧症・輸血・切迫流産・切迫早産・乳腺炎）
- ②本人（母）の入院保障（傷病による入院、異常妊娠や異常出産に伴う入院）
- ③本人（母）の三大疾病
- ④本人（母）のその他の保障（集中治療室・先進医療）
- ⑤本人（母）の死亡保障
- ⑥子どもの入院
- ⑦満期保険金。

ある意味で、それぞれ全く異なる種類の保険と考えた方がいいため、一覧表で比較するものでもないように感じるが、一応、次頁で一覧表を作っているので参考にしてほしい。

(3) 妊娠・出産保険の比較一覧 (短期保障)

会社名		ニッセイプラス少額短期保険		太陽生命	
商品名		ママと子どもの 1000day s ほけん		出産保険	
(系列)		(日本生命)		-	
加入可能年齢		18 歳以上		20~45 歳	
妊娠週数の制限		妊娠中の人		妊娠 21 週までの妊婦	
保険期間		1 年、最長 3 年まで更新可能		2 年	
支払事由と給付額		支払事由	支払額	支払事由	支払額
本人 (母) の保障	①妊娠 中または 産後 の特定 の症状 への保 障	うつ	-	所定の妊娠うつ、産後うつと診断	基準金額 1 ~ 5 万円 (1 回のみ)
		妊婦高血圧症	-	所定の重症型妊婦高血圧と診断	
		輸血	-	出産時の輸血	
		切迫流産	診断時(各 1 回)	1 万円	-
		切迫早産		-	-
		乳腺炎		2 万円	-
子どもの入院		子どもの入院	日額 3,000 円(最大 30 日)	-	-
本人 (母) の保障	②入院 保障	傷病による入院など	-	-	
		異常妊娠や異常出産に伴う入院			
	③三大 疾病や 先進医 療等の 保障	がんや三大疾病	-	がんと診断 (待機 90 日)・急性心筋梗塞、脳卒中で手術または所定の状態が 60 日継続	基準金額の 20 倍(1 回のみ)
		上皮内がん		上皮内がんと診断 (待機 90 日)	基準金額の 2 倍 (1 回のみ)
		卵巢・子宮		-	-
	④その 他の保 障	集中治療室	-	所定の集中治療室管理を受けたとき	基準金額の 2 倍
		先進医療	-	-	-
	⑤満期保険金		-	保険期間 (2 年) 後に生存	基準金額の 0.5 倍、1 倍、2 倍、5 倍、10 倍の中から選択可能
	⑥死亡保障		-	死亡したとき	既払込保険料
特 徵		切迫流産・早産と乳腺炎の保障と、子の入院、最長 3 年間保障 (母親の入院なし)	母の保障のみ、妊娠うつ・産後うつと高血圧・出産時輸血の各診断時、三大疾病、2 年のみ保障 (子ども保障なし)		

(4) 妊娠・出産保険の比較一覧（一定期間保障）

会社名		アイアル少額短期保険		スマートプラス少額短期保険				
商品名		ディアベビー		母子保険 はぐ				
(系列)		(住友生命)		(あいおいニッセイ同和損害保険)				
加入可能年齢		18~44 歳		20~44 歳				
妊娠週数の制限		女性 (妊娠中も加入可能)		妊娠中の人のみ、19 週目まで				
保険期間		更新は 54 歳まで		子どもが 20 歳になるまで更新可能				
支払事由と給付額			支払事由	支払額	支払事由			
本人 (母) の 保障	①妊娠 中または 産後 の特定 の症状 への保 障	うつ	所定のメンタル疾 患で 3 日以上 入院	3,000 円、 5,000 円×30 日 迄 (1 保険期間 中 1 回、更新契 約を含んで通算 5 回)	所定の産後う つ、育児うつで通 院	通院一時金 3,250 円		
		妊婦高血圧症		—	—	—		
		輸血		—	—	—		
		切迫流産		—	自宅安静になっ たとき	1 万円~1.2 万円		
		切迫早産		—				
		乳腺炎		—	—	—		
子どもの入院			出生日以後に発 病した病気で 10 日以上入院 (待機 30 日)	日額 (3・5・10 千円) × 日数 (30 日迄。ただ し、入院 10 日目 から起算)	子どもの入院、 手術、先進医療	2,800 円~、手術 1 万円~、先進医療~ 80 万円まで		
本人 (母) の 保障	②入院 保障	傷病による入院など	病気やケガで 3 日以上入院	日額(3・5・10 千 円)×日数(30 日 迄)	妊娠中の入院	一時金タイプ、日額給 付金対応など 3 種		
		異常妊娠や異常出産 に伴う入院	異常妊娠、異常 分娩で 10 日以 上入院 (待機 30 日)		分娩に起因する 所定の手術	1.1 万円~2.9 万円		
	③三大 疾病や 先進医 療等の 保障	がんや三大疾病	がん(待機 90 日)・心疾患・ 脳血管疾患によ る手術	一時金 (5・10・ 20 万円)				
		上皮内がん	上皮内がん(待 機 90 日) で手 術					
		卵巣・子宮	摘出手術	一時金(5 万円)				
	④その 他の保 障	集中治療室		—	—	—		
		先進医療						
	⑤満期保険金					—		
	⑥死亡保障					—		
特 徴			妊娠うつ・産後うつ入院保障と、母と 子の入院保障と母の三大疾病手術 保障	産後うつ・育児うつ通院と切迫自宅安静 の保障、母入院はタイプにより一時金タイ プ、日額給付金対応などが異なる、子の 入院保障(3 種から選択)				

おわりに

今回紹介した積立保険、熱中症保険、妊娠・出産保険といった商品群が示すように、保険業界の DX（デジタルトランスフォーメーション）が進むなかで、商品の基幹システムは SaaS 型（Software as a Service）へと移行しつつある。

SaaS 型とは、インターネット経由で募集、契約、請求などの機能をクラウドサービスとして利用する形態を指す。この採用により、保険会社や保険代理店は初期費用を抑え、システム構築期間を短縮して、迅速な商品開発や業務の効率化が可能となるのである。たとえば、株式会社 Finatext ホールディングスのシステム「Inspire」や、株式会社 justInCaseTechnologies のシステム「joinsure」などが、その具体例である。

こうしたテクノロジーの発展が保険業界を一気に進化させる近未来が目の前に来ている今、業務の更なる効率化・自動化が進むなかで、テクノロジーが果たす役割を深く知ることにより、「人」でなければできないサービスが何かを明確にできると言えるだろう。

(了)

inwatch Professional Report

【第252】2025.11.28

発行:有限会社インスウォッチ

■ InsurTech が生み出す

保険商品の比較検証

筆 者 森田 直子

発行元 有限会社 インスウォッチ

発行人 森田 直子

編集人 中崎 章夫

U R L <https://www.inwatch.co.jp>

<https://www10.inwatch.co.jp/>

お問合せ info@inwatch.co.jp

※コンテンツご利用についてのお願い

inwatch のコンテンツ (inwatch weekly, professional report) につきましては、購読者ご本人のご利用に限らせて頂きます。第三者に対するメールによる転送、ハードコピーによる配布等は、当社よりの許可を得たものを除き、固くお断りいたします。

なお、コンテンツご利用に関するお問い合わせは下記にお願いいたします。

■お問合せ info@inwatch.co.jp